陸上自衛隊　ニュースリリース

JGSDF News Release

https://www.mod.go.jp/gsdf/news/press/
（お知らせ）

令和８年１１月１９日
陸　上　幕　僚　監　部

日出生台演習場における１０式戦車射撃中の隊員死傷事案に係る
事故調査結果について

令和８年４月２１日（火）、西部方面戦車隊（大分県玖珠駐屯地所在）が日出生台演習場において１０式戦車の戦車射撃訓練を実施していたところ、１２０ｍｍ対戦車りゅう弾が破裂し、当該戦車に搭乗していた隊員４名が死傷する事案が発生しました。

西部方面総監部において事故調査委員会を立ち上げ、調査を実施してきましたが、今般、以下のとおり、事故原因、再発防止策及び当面の処置を取りまとめましたので、お知らせいたします。

事故原因	本訓練において、４発を射撃する予定のところ、３発目の射撃後に砲身後部の薬室内に残存した高温の異物（熱源）により、閉鎖機が完全に閉鎖していない状態で４発目の焼尽薬きょうが発火し、発射薬が燃焼（破裂）したものと特定しました。具体的な発生のメカニズムは以下のとおりです。 ○　３発目の射撃後、緊そくバンドの一部が高温の異物（熱源）として砲身後部の薬室内に残存 ○　４発目が薬室に装填されるまでの間に焼尽薬きょうが損傷（塗装の剥離・一部薬きょう素材の繊維露出）し、損傷箇所が当該異物（熱源）と接触するとともに、当該異物（熱源）により正常な装填が阻害され、閉鎖機が上昇途中で停止する不完全閉鎖状態となる ○　当該異物（熱源）との接触により焼尽薬きょうが発火。閉鎖機が完全に閉鎖していない状態で発射薬が燃焼（破裂）したため、爆風が砲塔内に逆流
再発防止策	射撃後に高温の異物が残存せず、焼尽薬きょうが損傷しにくい弾薬の開発・取得
当面の処置	○　現行の１２０ｍｍ対戦車りゅう弾を使用した１０式戦車及び９０式戦車による射撃については、引き続き中止 ○　１０式戦車で使用するその他の弾種による射撃については、同様のメカニズムによる事故が発生し得ないことを確認したことから、本日（公表日）以降、安全管理を徹底した上で順次再開